

◇ 決算書を読み取ろう！

Q : 株主総会のシーズンで新聞紙上では、多くの会社の決算公告が出ています。損益計算書を見て利益が出ているかどうかぐらいは判るのですが、貸借対照表とからめた決算書の見方は、わかりません。どのように見るのですか？

A : 「総資本経常利益率」などを求めることによって、企業の収益力などがわかります。

【解説】

決算公告には、損益計算書と貸借対照表等が掲載されていますが、このうち損益計算書は一会計期間における会社の収支を表し、貸借対照表は決算期末における会社の財政状態を表しています。これらの数値を使うと企業の収益性や効率性がわかります。その中で重要視されるものの一つに企業の収益性がわかる総資本経常利益率というのがあり、算式は（経常利益÷総資本〔負債の部と資本の部の合計額〕）です。この総資本経常利益率というのは、いわゆる投資効率（いくら会社につき込んで、いくらもうけたか）ですから、投資家の方にとっては、この割合が最低でも市場金利の水準であることが目安となります。

次に、その収益性の良し悪しが、何に基因するかを調べるのに、売上高経常利益率（経常利益÷売上高）というものと、総資本回転率（売上高÷総資本）というのがあります。前者は利益率を、後者は効率性を分析します。これらの分析によって、その企業の収益性の良し悪しや、その要因がわかります。

